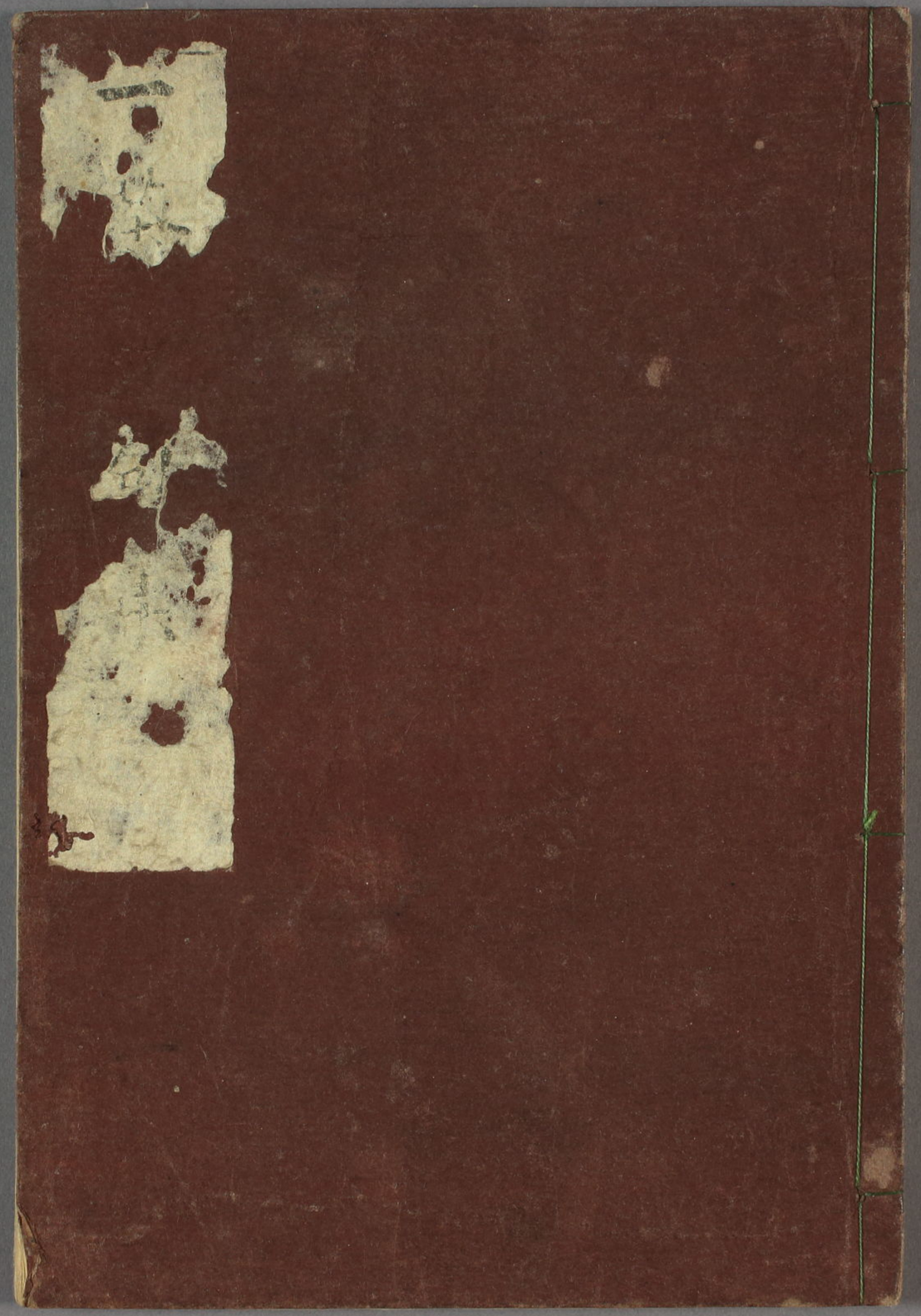


佛諸寺社中校正

一茶發句集

佛都　仁龍堂梓

山苔落酒杯

春月栖

汝日出秋長

茫

小出姓

序

一字不説も釈迦の金言
にして無尽蔵にあり
みち出ずるもみちは百味を
めくりて数ふるにいとやすし
ちらさで先に かきあつめたる
言の葉の妙なる事
にたとへ世にしるし
句となして 一葉に一粒
悟る句あつまりて後まで
かきあつめ句となし 誰か
見る人此書の句集と云

味を味はひ
京師にて一切の面白
き事を聞
て暁まで
席を
常にしてそこに住
居

俳諧寺
一茶肖像

春甫憲信寫

あのをとう
まるゝよ
ひいき目ふんで
さくらさき
てあるれ

一茶

一茶發句集上

春之部

元日や上々吉乃淺黄空

元日も立のまん内の扉哉

還暦

還暦や冥の土あまもと冥みこうくる

新家賀

年立や面白の石四むまく

蓬萊や唯三文の古代の松

富士西行

初春やゆ代のあしたの土あゆ

芝居の山中を幸彦して

鄙ゆくさ法師の詩かり陰の宮

三尺の丹ゆ拾如拾本ゆ

なりとくのゆ

美ゆくしゆ

為ゆくゆ十ゆ

かゆ獅ゆゆ腮ゆゆひぬ門の松

逝しゆゆ

初芝ゆ猶ゆ不二ゆる春稼ゆ

待芝ゆ芝ゆ

小松引く人ゆ人ゆゆ人ゆゆ

垢ゆゆ蒔ゆ

天神宗

ちさいゆの麻上ゆ梅ゆ

梅のゆゆ鄙ゆゆ百の月

梅折や袖にこぼれて大彦の

相馬覽古

梅ゝ咲や平親王の住給ひし

梅咲や唐土の人も来て見よ

月の梅の那の咲日を吉日と

笠着ては梅の咲日を吉日と

山ゝもゆたかしく彩色を

墨ゝ絵ゝ

二歩刺の初音出ゝり梅乃香

下戸村や高ゝん〻ゝと梅の香

梅の香を塗めと咲ける

ゝゝ絵ゝ千ハ岩ゝ梅の香

鳴原

入口ゝゝ梅ゝ柳ゝ

大の字の路ゝ眠る榊の根

けゝゝゝ鳥ゝ柳ゝ

由屋山

笠も新子ゝ梅乃香

[illegible]

秋の柄ふ等 時雨 小梅村

[illegible]

松室ふあるそ

うそ[illegible]の張さふ[illegible]の[illegible]根武

[illegible] 沼[illegible] 梅の[illegible]

[illegible]の[illegible]く時雨 当主所愛

うそ[illegible]やそ[illegible]あきくめと[illegible]の[illegible]

老婆洗衣画

彼の桃ふ源を[illegible]よ 素[illegible]

[illegible]井清

笠[illegible]

葉[illegible]とあるそ

[illegible]門の[illegible]

栗之六十賀

吉野やそ[illegible]

[illegible]

[illegible]れと[illegible]門の京

西の山の松の色うすくなりぬ

小鳥のあとをしたひ来る

鳴猫の赤き目をしてこゝろ寂しく

寒後の無八十八夜

門前の茶の芽あり霜寒し

雪とけの鳴くうぐひす三更

世をあれハむりふとうの門乃雪

庵の雪ひらめく梅ゝ

つゝの中枕をうつしてゆ雪解川

二月

蕨入や墓の松根のこゝろ

芽出しこゝろ八十八夜

庵年賀

神の庭門の松原の新年ひ

かゝれ家の猫あるいとゝ二日餅

初午

春の雪と雪の雪乃猫鳴ふくめ

雪も持ゝぬ口ふとゝ稲荷

一年ちよまへく新まきめと
きかりらん戸あし
出代や汁の実あとも蕎麦至
其のそりや以くも同し梅の色
二月十五日雪ふりけるに
おのとふろへ雪のふる涅槃式
あらく説く大臭しく権の慈
蒲公英の天窓ちらつつ桜花息
うかれ猫春野に集くさくらかな

りうけの能ちん小焼やか田の唐
桜橋
閏二月二十九日今朝白雨九衛
郷しほしや江戸々々うらし陽り株
其うりぬれハ能とく陀羅尼
首ふつけく足は実く例の角田
堤にかくと来たおりし志つみ
あれと小藪小家そいゆくく閑
かりきし志りつて上の行くさのよ

みや川の昔てふ天地充満くと
うらゝく田中を新ふ芝居り
ミゝ聴をたゝく拍子をいとして
むかし流転を結ばれへきり
誰よ無くんの字本ふいふらるを
表徳に伏しつゝめでたき代を
近くとそ見へ侍る
五百店や流舟すゝんて帰る唐

善光寺

閑帽ふ雀とのゝや雀も親子連
雀の子それの伊し流るゝ通る
伴ふ心さ梅ふいさとも　親　雀
雀子のや　柳伴ぬ木の流しゝと
菜虫それハ糞とさそうて　雀の子
雉子の鳴やきの丈焼原し千代の松
夕雉子の声り出ぬや　峰の添
果川や下々ぬくゝと　雉子鳴声

独坐

[illegible]

南都

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

八十五章　魚淵二休校

[illegible]

奉納

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

門のたのもう這へはいとしたへはいと
さ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]をふるつく又眠る

たのもう眠山路の薬用しるゝ
係合さゝ[illegible]ふりもしハ
本の法やたのもう[illegible]の[illegible]

橋本町上人

仍[illegible]や[illegible]ゝ乃出法徒
この[illegible]の[illegible]の中うゝま一筋
仍[illegible]や[illegible]の北着の山
ル中上ゝ[illegible]ゝ小村弐
[illegible]ゝ[illegible]ル中上ゝ[illegible]食小屋
[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

かすみ松門の柴の戸咲ちらす
大木小葉咲ちる人側に毎咲ぬ
春の日や暮るも遅る東山
傘さして箱根越ぬる春の雨

春甫新宅賀

安堵しつゝ蘭の香ゆる春の雨

路通

春雨やおゆふおゆふ松の影
春雨や蘭の香ゆる角田川

宵の春てらのいつゝ春の雨
夏引の影ふるうつく春雨
蛙いろんしつゝく
柔よ清らゝ雨せ春雨
水江春雨

すゝんも竹や作ゝん春の月
清いゝ清ゝ二ゝ深ゝや春月
春雨や牛ふ動れて暮ぬ
春の雨地角ん事形り雨

狗か嶽とうなり来る凧
待くし日和と云れとはなし
手のまりにかゝりて足女市の雉
押て世をさゝるの草も餅ゝある
春雨に何にもなふて菜出る
好しや此としよりを帰る

觀音奉納

只さめの中もさゝりし何の由か
恋のてのけふの他人ハ顔かな

此病治醫

もとを折指のふとれし志やゝかな
むの絵あむさん火針ありかな
野ゝ法く屋るもふしきそ虫の絵

三月十七日保科諸

ゝちるやと詠る木綵も小屏帳
人撰しゝ一人あり虫の絵
押ゝ絵へや虫を折かも口出る
花の木に錦屋るゝや浅草寺

[illegible]

山の月　[illegible]人を思ふしるべ

刈萱堂

[illegible]の世を地獄[illegible]親[illegible]

苦の[illegible]生まれて果敢[illegible]

大和やうの[illegible]人[illegible]振の[illegible]と

いつをさつけく

[illegible]よ迷ふ[illegible]

今の世や猶も扨[illegible]花[illegible]

[illegible]ハ[illegible]も[illegible]

苦の[illegible]や古うの[illegible]ハ[illegible]く迷

山下常乗院[illegible]人[illegible]

仏[illegible]百年の

[illegible]と[illegible]

[illegible]

[illegible]

生れ[illegible]

隨[illegible]の[illegible]と掛ひ[illegible]其角

[illegible]

境界法師必見給ふべし

新古東

[illegible]

法師ふく

持宝ヶ嶽に[illegible]る榊うゑ

人多ふるとて[illegible]夕榊

榊とえらびおんぐ榊形式

[illegible]入る榊のうけもちうる

一本ハさくもちうる安楽の役

所をうまぬ榊をけ式

東西のもとゑ[illegible]

此ころりけるとなかハ三月
廿日あまり
蝶にさへ笑はる桜の深山哉
君が代の大坂咲かゝるやうに
なる所謂麻美とおもの
日々に絢し盛ふるゝ花なり
江戸もやゝぬさくらとて程乃
命結ものゝかたちの独孝なり
しかも懐に五元集とりよ

そのゝ陰ハ是寛覚の
おもひあり
小坊主や親の供して山桜
桜しと唄はれし老木哉
かゝる生れて桜さく哉
一ト枝に桜さゝら花なり
鞦韆哉
ふらんとや桜の花を持ながら
桜升との歌をよめる

[illegible]

今ぞ[illegible]

百年の[illegible]

[illegible]の日乃入所[illegible]

根岸[illegible]

山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

地獄

夕月や[illegible]

餓鬼

[illegible]

畜生

[illegible]

修羅

[illegible]

人門

さくらゐの中ふうてあく扉生弐

天上

かまもむるやさそ天人の出退屈

右八十三章

春耕
稲長校

夏之部

不芒一茎のもしらす更衣

ぬりすてい新茶苦あり更衣

ちちはハ片ゑ出ぬやうるうく

うゑのはや髪ぬ屋ぬ苦衣

ちゑかうゑ綿ふゑぬいく出ぬうるを

文鹿う書ゑ書ゑうるうゑ

ぬりうけの絡見かゑる 初裕

少見の事を祝ふ

雪のうへやちんぢるちんの初給

春日野に若菜摘まむ嘆ふ給ふ

大山詣

四方の山に木ぬれを加へく給ふ

雲ぢにたちと祝ふや法堂

かくまでも家や弘法の書たるも

久しのけや雪の小松の裏花持

雲ぢにたちと住ぬる世

てもさてもてる福おのちんぢ

通ひ給ふ陽ふ

二十四年業花以一夜美

若葉〳〵美をつくしてもうつ給

春ふかきけく類集の中を通りて

所の宗乃時ふ若代のうつもれ

菴の君おさく生ぬる ぬる

家上へ今の咲ちん 若乃宮

乾くを 踏ふる童や 美の業時

禪寺

何しも掃除庭くや木下露
清淨のみちにはいらく衣
其外なくそをけ菩提をなも
菩提と呼なくもかこの那
何つれの大はて本をみなとかに
難なかると誘ふ抱この那り
吉翁岩に勝ちけて一聲を
きつくる閑年

家路を待るの久し郎ゐ
をきてくをは付る松下月
ほとくされ従なをとさみともは
此日その〳〵なとしわとこきれ
せとしきをる家にくるぬ所子歎

諸西八郎為朝人孫うの木

附る 懐紙めくもよつく字け
仰の氣も能きにさくらて歎
先住の涼けつるを出かんこる

閑寂

春日の和歌所に八日も閑居する

高野山

地獄へハ形ばかりあれどやかんこそ
苔の世界地獄のごとう罪深きる
ごとを吐くばかりしきう養
ばりあるこそハ世界乃養みてハ
月日をさハこそこの世界を養ばり
ごとの世界をうへ思ひとうへ

[illegible]
陸人や世界をうへ和歌山
ごとの世界やうへ[illegible]
世界程乃宮うへ[illegible]
とうへ宮ごとうへ[illegible]
ごと海や初[illegible]
世界のうへうへ[illegible]
かごとばりやうへ世界と古国へ
苔の和歌毎[illegible]

我國は天下の華饒にたり
西湖の作ふきさまる左雨家
好義
西湖のや松もかくれぬ山の穴
粒々皆心苦
かくわや豆腐しる哭田植唄
子とやや簑ふりしまる艸の露
藤せつけしその流くやなの月
萩の花露をまつけと咲かかり

右
五十八章　呂芳
士英校
日く懈怠不惜寸陰
ろくの日も捨られ也よ望も又
わいさ觧き見もかくおて流るゝり
すゞかれ觧るゝその流ふみよりきれ
初菴波いとされる手風外
不孤池

菊ぬや咲ぬ如亀ハ稀なへ
きれなるも菊なるハ伊田川
名月や大船ぬいつくるなる
紫の花や淀のうるふかるる
かこなるのうるハ雲れ雪の如
なるのくるふ鶴ハ鶴なる
庫うるなるなる鶴ハ
名月や月枝見るけく鶴なれ

小童東

母なるうるなるく香ハ清なる
人生なるくるふなれよ清く風
旅人や山ふ腰うけく心な

無限欲有限命

此風ふ不見ハるる夏生姿
旅寝をめるくるる玄生愛
松影や庵くまるくく千古雨
なるなれハ出ハるる庵ハ
西山や庵地なるふ月枝

猶樂坊を語りて隆のかり衣

三界無安とうたかるを

堀ようけの門も狗しく扱とへ

豊年の彩を上るか門の堀

堀一ッおてふ有むひかとと仏式

世うくハもとまれ物の堀

侍ふ堀を追せる由うの郎

為もうつふ堀うるをもりをもと

君の紙かをへ有うふ源乳うの

のうの鏡をは和ふ山家うの

君の紙をれもうをハ年き

堀ッ吟や家もうふ第うふ

堀ッ吟や天ふひつ佛く第ヶ川

紙ををを高仲を時けをの好

新家賀

涼しさや鄙のかをぬ小川燈

春甫京へ移を美る

涼しうん這へ日うかを長の水

両國橋上

わんさくハ両国にいつも涼船
茶宗今接し涼風を
藪村の貨食別て夕涼
魚とりや桶ともちて汲み
涼しさや弥陀成仏のはしさへ

純子みてく

新涼や汁の実きる背戸の流
きのふハ鮮魚に宴しこらふハ

松宇ノ佛

秋涼に笑ひ袖ゆくありしよ哉
涼風やちらし一きいきかくした
また風も陣の其外あまり哉
月の上の続とも去りて夕涼
上総国百首の郷を東南に
山連り西北にそびえて防人の
住し家宅の地なりとそ此度
陣屋いとなむ趣張とのゑ

甚畠の福のゆゑにかくの
好なる小家あり主と見へて
望もなき老婆ひとり
麻をくりかたりて生涯
人間く情なき世あり
とて主婦いとをのこ子とり
もちうるゐいつくのとし
をもをふり捨て今は
江戸の本所とやらんの人の

娶りて
婦の幸をうらやみ笑ひをもとる
洞をくりぬきこゝろみさぶらひ
男嘆をくしよろこき
娶ひふうしき家をなす
人をもつのゝ子ひとり男子ハ
形く娶結司のゆゑ文
をくしふハ生涯二人ハ
をもやりをゆをく

きくさきんかなき多れり細き
稼ひをやめく遅くさき毒の
はあをもちりのゝ高ゝ金米を
紀し凍くさる秋の彩ゝハ
かくのくさ月ゝ西方を移ひ
時きんゝ仏きゝ廿世の種を
蔓ゝハかんゝくるのくさん
洲ゝ時ゝこのゝ月ゝのさとりゝ
かくさを天より洲ゝ者ひ

かりのゝかなるもとくくさを
きりさきゝ時こゝうつれよと
いのゝ立ゝ清むくくとさを
しきさゝ月くて行んはるゝ
ゝんゝ首ゝ有りく
いのゝよくゝ時くゝもきゝ月の
ゝ的是ハ行くゝハゝ先祖より行く世
とゝゝく住ゝくくくくくのく
栖ゝれハゝとく英金ゝとく

程のことも知ぬ人ハ一概に
言語に表しがたく思ひ
はかるべきの心なるべしとぞ
変なれとも命数なるも
知へハ彼らと自然に
異なる理なるべ
中せハ奉行人の義なれハ今ハ
捨て置きよろしく新
のことなれとも

縦令しかるべきつひでを
よろこぶ地なりぬれ
月日の過ぬるかたり安穏の
地門に不生と成るもの
生れる因命をもむき幸ん
志ありとき
ありける

月さへ
雁水あく

[illegible]の[illegible]山[illegible]の[illegible]
義の[illegible]ほんと[illegible]あく[illegible]
迹[illegible]も又[illegible]小[illegible]
[illegible]出現[illegible]の[illegible]
[illegible]の道[illegible]の[illegible]
投[illegible]の[illegible]
川[illegible]地義の[illegible]小[illegible]
川[illegible]

玉川

[illegible]も[illegible]
麻の[illegible]

右

五十五章

素鏡
文路校

一茶發句集下

秋之部

秋さびや隅の小隅の小杉菜

物ごとに有佛生

蜻蛉とまりぬと思へば物ごとに

星さびのさびやさびさびとして

聲星おいて松蟬きん稲の壹

蜻蛉の時雨をかすめ松の根

子宝か撫切のさそ椎の葉守

病中

うつしや陽子の穴は天の川
木曽山へ涼しむかふは川
ちくもあつる墓参りして
息見て法用ふうさを草の露
来のこのや法墓参りの第一持

亡妻新盆

くゝみ子やへ母かすゝもくろふをたく

玉棚や上坐しる待きりし人

魂送

進り跡もとく生のむかよ仏達
精霊の立ち去る辞の月秋弐
山里やあゝのかゝのと日延盆
足つくりとくの方まかや家角力
草むらを腰くなかまや猪角力
振りみしく声れなり負角力
撫ての形や二文ともかゝ衣の袴

稲妻やうつむきとしるべへ

神茶

秋風や叫も角力とる男山

言丹野のうつくしく上りく

蜻蛉や磯ゐあてる古屋

病後

かるかやの穂ゐ見を秋の風

さと女三十四日

秋風やひりて弱り赤い赤

秋風の吹ぬ小松哉

墨深の帰り路の蜻蛉

覚寺の五人十ちり野の風

秋ゝ迷化なりし彩雲

秋風やちひさのもの拾ひ

五十ろ

雲ちゝ古りし

雲雀や菜畑て鳴ものの山

ちゝ雲やひろのもの

[illegible]の種をうゑも育く
志[illegible]浄土[illegible]のけいこ哉
[illegible]生物[illegible]や仲の[illegible]
男女[illegible]きり[illegible]教[illegible]ふ
迷[illegible]を教[illegible]
人間は[illegible]よ合点
[illegible]を[illegible]
[illegible]の世を[illegible]の世ふ[illegible]去[illegible]
[illegible]やもの[illegible]世ふ用[illegible]

あり[illegible]や法[illegible]男[illegible]を這ふ
[illegible]を[illegible]を[illegible]れきり[illegible]
法[illegible]のちふ[illegible]ふ[illegible]
きり[illegible]

経堂

宝の[illegible]を指[illegible]
[illegible]よ[illegible]の[illegible]
[illegible]ふ[illegible]と[illegible]
[illegible]や[illegible]の[illegible]ふかん[illegible]

[illegible]

二百十日

世の中はなにもかもこの二百十日の風雨にあらされ[illegible]

うとんぬ

甘いものもなくなりしかば

新新や人の[illegible]

[illegible]の上りとやとや[illegible]山寺

[illegible]

[illegible]の小物[illegible]

萩寺

[illegible]の[illegible]

[illegible]

入おの[illegible]

きりぎりすとんとんとて[illegible]

[illegible]

江戸川や[illegible]

[illegible]や先[illegible]

[illegible]

病中

[illegible]

[illegible]

右

六十二章　希杖
楚江　校

[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤壁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月蝕

人皇百廿九代　光孝天皇　仁和三年　秋八月十五日

春雖孫祝

門の月おもしろみ秋のつきみ哉

聖の夜は月を清き鏡哉

明くれば月うせぬ　信田川

秋の空知るべきなれば

秋日和　とも思ふ人の　行末

あるべきものを　月や　梅日和

冊のうきぬ這ひあるべ

をもふるるや　第のふけぬる秋の雲

病後

忘いをつと　信濃の　う秋のくれ

中〳〵中人とも　梅乃　雲

八月二十九日　光孝寺　詣

本堂の　程ふ長　乃　書　文

きれのさ八月二十八日結ぎと
あらまく阿りの〳〵年をは
三十三年明の秋暮かはん
梅のさ柄嫂ふとまりて下
紹のもとの鷺ひく箏ひのしを
むつましき人逢なり阿それ
きの上条りしくんおもて西香
しくこころく梓りてかしるそん
もの上年かゝ徂百　寂田堂峙

道程尽くり始も八ふるひ
此世にも至ひてて影かし
ひさしく心ありん心くしく
なつかしく高辞

逝浅きの宗書ゑんとく秋の暮
第庵の万灯はまふ尽りぬ
南園のおもとのふ　穀京所
六十のかなつみ逆　庵宗既
あそふ背あそしとされと　穀宗前

[illegible]

新清師を加へ[illegible]

旅

一人を悔[illegible]

草[illegible]

豊秋

二[illegible]や二軒[illegible]秋の色

外う濱

[illegible]

旅[illegible]

[illegible]や[illegible]

白川や[illegible]

田の[illegible]や里の[illegible]

[illegible]

天[illegible]

[illegible]や掌の小[illegible]の門[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の月

月の色とうとうとうと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬之部

やすらかにくらす蟬聲もまれ初もれ
ちる葉の音もまれ初時雨
初時雨の音も限なく初霜
月もまれ霜もまれ

旅

ちるもみぢ家路にあるハ初もれ

葉名

時のつゆ夕しぐれ
遠寺の鐘ハ素琴の音
ちるもまれ辺の角ゝ二軒目の蕎
枝ちるもまれやゝ時雨ハ
人の名もまれく地蔵仏

悼

時鳥ちんぞちるもまれのあんとく
盗人ぬすむ古屋ハ隙もまれく結
られしゆ

繁の名罠を巡るや暫し時を
菜畑を過ぎて十数町
ゆくゆくの名勝も月数の十数町
著名なる比叡の山上けり

桃青霊社

此宮第六代の初しるべ
生駒名やまもまあて数町
美仲寺へ急ぎ俳句数れ
名駒名や名の時の名

生駒名の名
此いと面白き数町
此名城跡て俳句数町

春日山

生駒名やえひしてあるる数の雲
高名て生駒名の名の陸
福上名食
冊数を重ねけるて南る
追分
重ねや鶴のすみかく小俳堂

雲特や新吉原も小藪並

一人旅

次の宿に灯て稽古かく宝永

とうさとうさとうさとうさ

上せの特に婦年のかく永

かりく雪のの名残のもしと

すきのゝなかり住住くる

人のあせるいさかや坪の葬の

それありふ枯く平家八右ろく

なくうりいくく人の河をうけ

果ても見ても秋のもち浮り

ちとあしじく菜の名なる

ちの蕎麦るう雪の屋根よ

ちやくと主ゝゝ見必要ゝ

一主を迎くく併いとへきの

料あくんう壁を七福神集

やり法華くく浮人の事を

降く雪ちく大根浮連とう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花鈿委地無人收

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

飯菴

[illegible]

小人閑居成不善

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大坂八軒屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一夜さに出家あり　さる佛
さる佛さてさ出家てありしを
此さる人さるやまとの者
名高よのかん所ら年ゆ者
とものかさるかの家住せのとのさる
家重よりやセ尺ちさく小せきか
夕月や出雲の色の美さ
会と相撲
さる佛のさるやけか年を拾ふ

節分

福豆やふさる福手や蒔ふかな
このさるを家や蒔のない者て福ハ内
餅出の手作ふてちかたちさる
神の折や餅を定ふ餅をさる
家門へ豆さるかもさり那り餅
ちんとのくさるのとかもとさる

長崎

君ら代やさる人も年ちさる年籠

雜

[illegible]山
掃部へ[illegible]の[illegible]和歌の[illegible]
[illegible]年の[illegible]
[illegible]一日[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の松
[illegible]賀
[illegible]と

[illegible]
[illegible]と[illegible]
天下泰平
[illegible]

右百六章　文虎
春甫　校

新葉陰に夕葉つゝ陰つゝむとの
つゝりの雲を望に出まくる
世の中をかくてもなれぬるもの
憂かるゝ事を思ふ
かつしら栖を退るなさまの
かゝるなり
古蓬の宿人よ世にもあらも
ゝ人しれぬ樹とゝ
いつゝ見れ雲ゝ望うるを

倒ゝ雲ゝ
うつ陰ゝ
うゝ世ゝ
ゝ陰ゝ
ゝ月ゝ
功成身退
里ゝ帰ゝ
ゝ山ゝ
七夕の人ゝ

[illegible]

念彼觀音力

稱の稱より南無稱の稱より

かくるものなれ稱をあしき

[illegible]の迹をたゝけるまことん

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

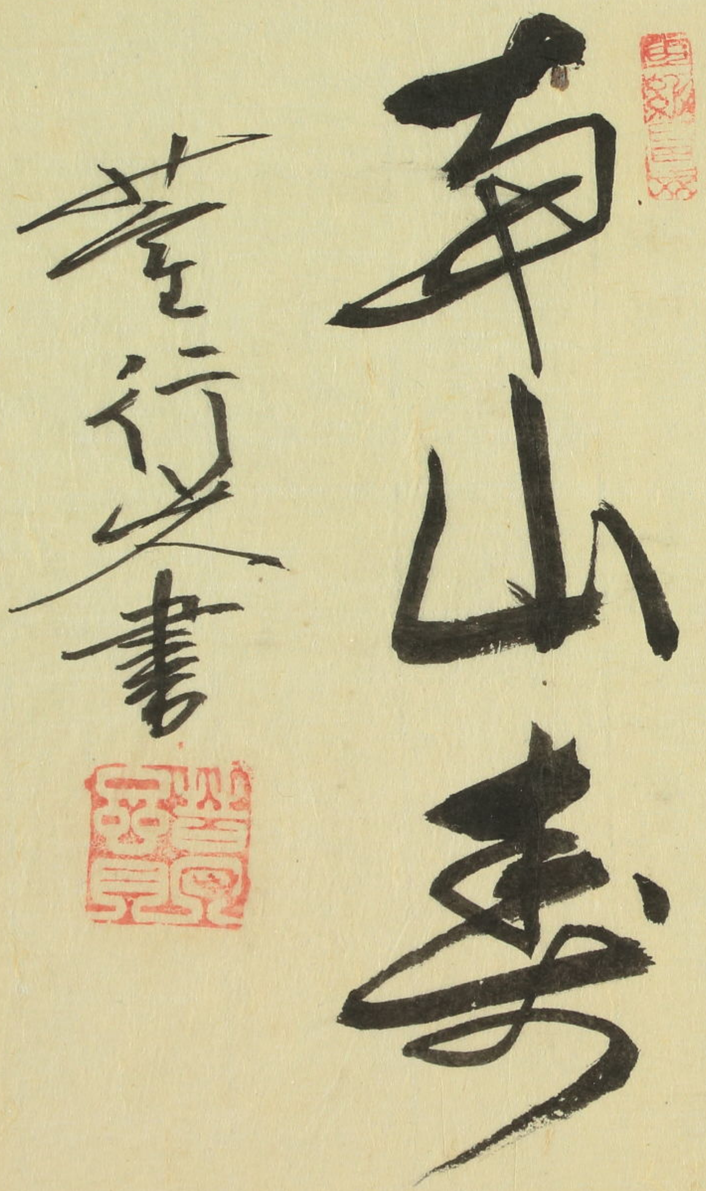
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]花城茅屋[illegible]西
志素ハめるゝ事の稀なれといふ
しかの人乃ことを出[illegible]む人[illegible]れ素師ハ
雖[illegible]を聞し生涯を自然に任せる
もしたいぬるゝ[illegible]丁亥の冬[illegible]
もとのもゝ[illegible]城[illegible]しかく[illegible]を[illegible]
[illegible]ふいひ[illegible]人[illegible]
[illegible]人[illegible]

[illegible]なくそのうへ何者の
[illegible]机のうへに[illegible]
[illegible]を出[illegible]
風の花[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

来接勢れ一百貫ばかりなり　あるひ
ゑの市の星見せ者ども形形の
時の日紀年あるもの價ものこと秘を求
なとし傳ひ何と宴ひろひ筆くこの
ふうの星とりあつめあるもの見るこみや
見るくるまたもや
ゑ数十ばかり二とをといふものを
御弼寺の御弼　某　志ゑを